

VERMONT  CASTINGS

DAUNTLESS FLEXBURN

ダントレス フレックスバーン
取扱説明書



2235 クラシックブラック
2238 レッド
2237 マジョリカブラウン

この取扱説明書は大切に保管してください。



バーモントキャスティングスのダントレスフレックスバーンをお選び頂き、誠にありがとうございます。
バーモントキャスティングスのストーブは、長くご愛用いただけるように細部まで細心の注意を払って製造されています。ストーブの使用を重ねると、鑄鉄独自の熱をゆっくり吸収、放射し長時間温めてくれる特徴がより分かるようになります。また、バーモントキャスティングス製品は、最もクリーンな薪ストーブの1つです。しかしそれは製品の機能と正しい操作方法の両方がそろって初めて実現します。この取扱説明書には本機の操作や、メンテナンスに関する情報が含まれていますので、よくお読み頂き参照してください。

⚠ 警告！



この取扱説明書に記載されている操作方法を守らなかった場合、火災や怪我、場合によっては命の危険があります。

- ・ ガソリンや灯油、アルコールその他の可燃性液体燃料を使用したり、本機の近くに保管しないでください。
- ・ 燃やしすぎに注意してください。もし本体や煙突が赤く又は熱くなりすぎていたら、それは過剰燃焼状態です。過剰燃焼による故障の場合は保証の対象外となります。

■注意事項の表記について

⚠ 警告

この取扱説明書に従わず設置、使用した場合、火災や怪我、命の危険があります。

⚠ 重要

この取扱説明書に従わず設置、使用した場合、火災や怪我、命の危険が起こる恐れがあります。

⚠ 注意

この取扱説明書に従わず設置、使用した場合、火災や怪我の恐れがあります。

⚠ 注記

特定の状況での、適切な対処方法を説明しています。

⚠ 警告！



本体が熱くなります！

本体、ガラス、ハンドルなどの機器は、燃焼中大変熱くなります。
特に熱いガラスはやけどの危険があります。

- ・ ガラスが冷めるまで触らないでください。
- ・ 小さなお子様が近寄らないように注意してください。
- ・ ストーブを設置している室内では、お子様から目を離さないでください。
- ・ 本体や周辺機器が高温になることを皆に周知してください。
- ・ 本体周辺に衣類や可燃物を置かないでください。火災の危険があります。

⚠ 重要！



火災の危険

以下の行為が行われた場合、保証の対象外となります。

- ・ 壊れている機器や部品等を使用しての設置。
- ・ 本機の改造。
- ・ 弊社でご案内している設置方法以外での設置。
- ・ 正規品以外の製品を使用しての設置、使用。
- ・ 全ての必要な部品を完全に使用せずに操作すること。
- ・ 本体に脚が付属している場合、脚を設置せずに操作すること。
- ・ 過剰燃焼による不具合（本体や煙突が赤くなっていたら過剰燃焼状態です）。

これらの行為は火災の危険があります。

正しい設置、操作、メンテナンス方法を守らないと怪我や故障の危険があります。ご不明な点はストーブ購入先の販売店にお尋ねください。

目次

1 基本情報 P4

2 操作方法 P5

| | |
|-----------|-----|
| 機能と特徴 | P5 |
| ストーブの調整 | P6 |
| 薪の投入方法 | P7 |
| エアークントロール | P9 |
| 灰の処理 | P10 |
| 排気煙の確認 | P11 |
| 煙/CO感知器 | P11 |
| 室内負圧の抑制 | P11 |
| ドラフト管理 | P12 |
| 安全のために | P13 |

3 メンテナンス P14

| | |
|--------------|-----|
| 鋳物表面のお手入れ | P14 |
| ホーロー表面のお手入れ | P14 |
| ガラスのお手入れ | P14 |
| ダンパーの調整 | P15 |
| ドアラッチの調整 | P15 |
| ガスケットの交換 | P16 |
| 煙突システム | P17 |
| メンテナンススケジュール | P18 |
| 触媒について | P18 |

4 トラブルシューティング P20

5 パーツリスト P22



1 基本情報



DAUNTLESS FLEXBURN

ダントレス フレックスバーン

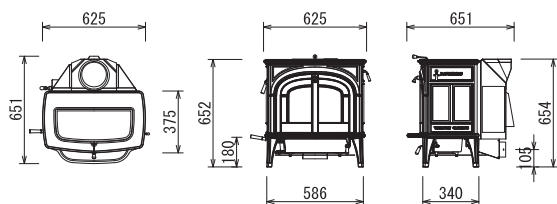
長時間燃焼と料理が得意な中型モデル

バーモントキャストイングスの伝統を受け継ぐ、時代を超越した美しいデザインと铸铁構造の最新機種。中型サイズでありながら、独自のフレックスバーン燃焼によりワンランク上の暖房能力を発揮。オプションの触媒を組み合わせることで、燃焼効率を最大限に引き上げることが可能。広いクッキンググリドルでは様々な調理ができる他、オプションのクッキンググリルを使用することで、家に居ながら本格的炭焼き料理を楽しむこともできます。

(仕様)

| | | |
|--------|----------------------|--------------------|
| 燃焼方式 | フレックスバーン | |
| 最大熱出力 | 非触媒式 | 12,400kcal<14.4kW> |
| | 触媒式 | 10,500kcal<12.2kW> |
| 燃焼効率 | 非触媒式 | 81.6% |
| | 触媒式 | 82.6% |
| 排気煙量 | 非触媒式 | 1.1g/hr |
| | 触媒式 | 1.2g/hr |
| 最大暖房面積 | 185㎡(約112畳) | |
| 最大燃焼時間 | 11時間 | |
| 最大薪長さ | 40cm | |
| サイズ | W625 × D651 × H654mm | |
| 重量 | 176kg | |

詳細図(mm)



フレックスバーン燃焼

フレックスバーン燃焼は、クリーンバーン燃焼に触媒燃焼を組み合わせた独自のハイブリッド燃焼技術です。触媒なしでも高効率に稼働しますが、触媒を追加することで低燃焼でも15%の効率UPを実現します。



- ①一次燃焼
新鮮な空気による薪の燃焼。
- ②二次燃焼
煙が二次燃焼室に入り、追加の空気と混ざること
でクリーンバーン燃焼。
- ③三次燃焼
触媒を追加することで、未燃焼ガスを完全に燃焼し、新たな熱も発生。低い温度でも未燃焼ガスが燃えるため、長時間燃焼と低燃費を実現。

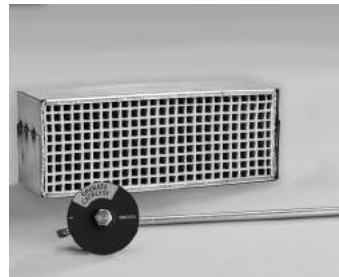
オプションアイテム

触媒キット

品番 3406
・プローブ温度計付き

外気導入キット

- 品番 OA-VC
- φ75アルミフレキ管
 - ジョイントパイプ
 - インテリアカラー
 - 外用カバー



クッキンググリル

品番 3407

トップローディングの下にセットできる専用グリル。
家に居ながら簡単に本格炭焼き料理を楽しめます。

2 操作方法

1 機能と特徴

ダントレスフレックスバーンでは、2つのコントロールレバーで制御します。一つは一次燃焼用コントロールで火室内に酸素を送ります。もう一つはダンパーで、ストーブ内の煙の流れる方向を変え、煙突に直接向かわせたり、触媒を稼働させたりすることができます。(図2.1)

ストーブに刻み込まれているマークは、コントロールレバーを使用する際に正しい方向へ向けられるためのものです。「○」方向でエアークontrolが開き、「●」方向で閉じます。

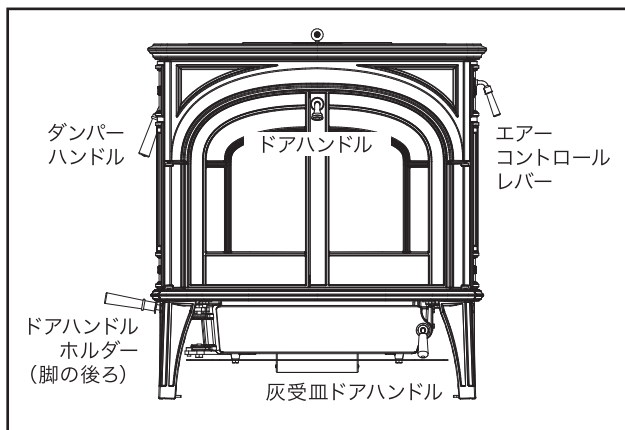


図2.1 ダントレスフレックスバーンのコントロールの位置。

熱出力と燃焼時間の制御

ストーブ右上にある一次燃焼用空気のエアークontrolレバーは着火、維持、火力を上げたい時など、空気の取り込み量を制御します。

一度エアークontrolを手動で設定すると、バイメタルサーモスタットが燃焼中の熱出力を自動で一定レベルに維持します。

取り込む空気が多いほど、火は勢いよく燃え、逆に取り込む空気の量を減らせば、低い熱出力で燃焼を長持ちさせることができます。

最大の空気供給量と最大の熱出力を得たい場合はレバーをフルカラーの方向へ動かします。暖かさよりも燃焼時間の長さが目的の場合はレバーをフルカラーとは反対の方向へ動かします。(図2.2)

⚠ 重要!

本機は工場生産時に最小燃焼率が設定されていますので、変更しないでください。

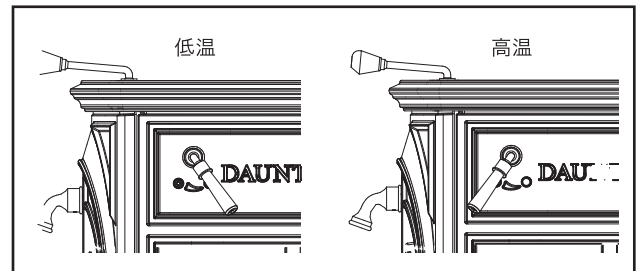


図2.2 エアークontrolレバーはどの位置で止めることも可能。

ダンパー操作

ストーブ左側にあるダンパーハンドルにてダンパーの開閉をし、ストーブ内部の煙の流れる方向を変更させます。ハンドルが後ろ(Open)を向いているときは、ダンパーは開いており、煙を直接煙突内に通しています。ダンパーを開く時は、最初の着火時や薪を追加する時、火を再び大きくする時です。グリドルやフロントドアを開くときは必ずダンパーを開きます。

ハンドルが下(Closed)を向いている時は、ダンパーは閉まっています。煙は二次燃焼室を通りながら再燃焼します。これにより熱効率が高まります。その後、煙は煙突から屋外に抜けていきます。(図2.3)

ダンパーには中間位置はなく、常に完全に開くか閉じなければなりません。ダンパーを閉めるときは、ロックする位置までハンドルをしっかり締めてください。

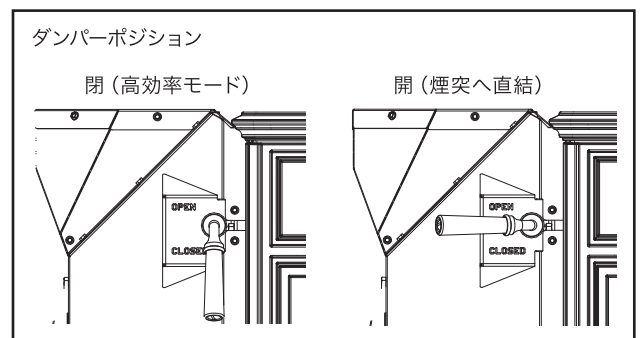


図2.3 ダンパーは開か閉のいずれかで、中間位置はなし。

⚠ 注意!

ダンパーが閉まっている状態で、フロントドアを開けないでください。開けると室内に煙が流れ出ます。

■ ストープの調整

鋳物は非常に強固ですが、ハンマーなどの鋭い一撃や、極端な温度変化で壊れることがあります。鋳物のプレートは温度の変化に従って伸縮します。ストーブを初めて焚く時は鋳物にかかる熱ストレスを最小限に抑える為、下記に示す1-3の手順に従って何回かに分けて焚き、鋳物プレートを徐々に熱に慣らしていきます。

薪の着火作業

本機に使用する薪には無垢材のみを使用し、薪は直接グレートの上に載せます。薪を持ち上げたり、薪以外の燃料は燃やさないでください。

ダンパーは、着火時や薪を追加する時は必ず開けたままにしておきます。ゴミや化学薬品、液体燃料を使用して着火しないでください。ガソリン、灯油等の液体燃料は絶対に使用しないでください。これらの液体燃料は、使用中は本機に近づけないでください。

1. ストープのダンパーを開き、エアークントロールレバーを全開にします。
2. 着火剤を火室内に置き、その上に指の太さ程に細く割った焚き付け6～8本を組みます。その焚き付けの上に2～3本大きめ（直径25～50mm程）の薪を載せます。（図2.4）

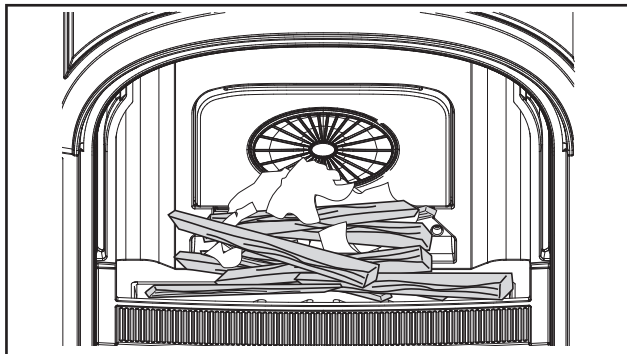


図2.4 着火剤と焚き付けで着火。

3. 着火剤に火をつけドアを閉めます。直径80～120mm程の薪を追加し、徐々に火を大きくします。初めて慣らし焚きの場合、薪をしっかり熱し、消えるまで薪を燃やしてください。火を慣らしている間は、ストーブが260℃以上の高温にならないようにオプションのストーブ温度計で確認してください。必要であれば、エアークントロールレバーを調整してください。ストーブの鋳物やペイントが燃えたような臭いを最初の数回感じるがありますが、問題はありません。

⚠ 注記！

一部の煙突は、外気温の影響であらかじめ暖める必要があります。この状況を改善するには、着火剤を焚き付けの上からストーブの後方に向け、火をつけドアを閉めます。この方法は煙の急激な上昇を促し、良いドラフトの発生をより起こしやすくします。一度ドラフトが起こったら、フロントドアを開け、残りの薪に下から火をつけます。煙突にしっかりと煙が上がるまでこの方法を繰り返し、あらかじめ組んでいる着火用の薪には、煙突が温まるまで着火しないでください。

⚠ 注記！

トップダウン着火方法

着火時に出る煙を制御することは、ストーブがまだ最適温度まで温まっていない為、難しいです。このような“コールドスタートアップ”時の排気ガスを減らす一つの方法として、『トップダウン着火方法』があります。手順は、大きな薪を一番下に置き、次にそれより小さめの焚き付けを上積み、さらに小さな焚き付けを上積み足します。一番上には細かい焚き付けを置き、火をつけると焚き付けは上から下へと燃え進みます。火の大きさが徐々に大きくなるため、空気不足にならず排煙も減ります。

4. すでに慣らし運転をした状態であっても、1-3の手順を踏み徐々に火を大きくしてください。大きめの薪（75～100mm）を足し、50-75mmの熾床ができるまで、細かい薪も足し続けます。燃焼システムが適切に機能するためには、良い熾床が必要です。
5. グリドルの温度が230℃に達し、十分な熾床ができたなら、ダンパーを閉めます。これにより、ストーブが十分に高温になると発生する煙やガスを、二次燃焼室へ流れるよう促すことができます。点火後数分で急激に高温に達したとしても、ダンパーを閉めるのが早すぎると、二次燃焼がストップしたり、火がすぐに消えてしまう可能性があります。
6. 希望温度になるようにエアークントロールを調整してください。

⚠ 注記！

ストーブの機能は様々あり、こちらに記載されている内容はその出発点にすぎません。この取扱説明書では、本機の特徴がどのように良好なドラフトを促したり妨げたりするのか、また、十分なドラフトを促さない場合、良好なドラフトを生むにはどのようなテクニックが必要なのかを説明しています。

触媒による高燃焼薪ストーブ

本機はオプションで触媒の設置が可能です。触媒を使用しての操作方法は、P5で示している内容と同じです。

必須ではありませんが、触媒を使用すると、二次燃焼に最適な条件が得られ、低燃焼時の効率が最大15%向上し、薪の燃焼から最大限の熱を得ることができます。触媒構造は、コーティングされたセラミック製の「ハニカム構造」です。この触媒は二次燃焼室の底部に配置されます。二次燃焼中に完全に燃焼されなかった煙、ガス、微粒子は触媒を通過し、三次燃焼を行います。これにより、より高い燃焼効率と煙の排出量を削減することができます。触媒は260～315℃に達すると、煙と微粒子の燃焼を開始します。この温度は触媒を使用しない場合の約半分です。P6“薪の着火作業”の操作手順に従っていただければ、ストーブは十分に高温になり、触媒が機能するようになります。一度触媒が作動すると、煙を燃焼させることで発生する熱で触媒の機能を維持します。触媒が作動しているかどうかを判断するには、触媒の動作範囲を示す温度計を確認してください。触媒温度計はストーブの背面に取り付け、上からのぞいて見ることができます。

⚠ 注記！

触媒温度計の温度が定まるまで、ダンパーを閉めてから数分かかります。ダンパーを閉めた後の温度が、触媒が機能する温度に達していない場合は、薪を足すか、ダンパーを開け、触媒が機能する温度まで達するよう燃焼を促してください。

触媒温度計が、触媒が機能する温度域を超えて高温を示している場合、触媒が破損する恐れがあります。多くの場合、一次燃焼の空気を減らしたり、薪の量を減らすことで温度を下げるすることができます。この場合、薪は追加しないでください。乾燥した薄い板や含水率14%以下の乾燥しすぎている薪を使用することも控えてください。使用すると、過度に高温の状態での使用が続く、触媒が破損する恐れがあります。処理された木材や溶剤、ゴミは絶対に燃やさないでください。これらは全て、触媒に害を与え、正常な作動を妨げる可能性があります。段ボールや紙類の使用はお控えください。石炭は使用しないでください。石炭は大きな灰や煤を発生させ触媒に付着し、煙が室内に漏れてしまいます。また石炭は触媒に害を与え、正常に作動できなくなってしまう可能性があります。

薪の投入方法

グリドルを持ち上げると、薪をストーブの上面(トップ)から投入できます。薪を足す時はこれが一番簡単な方法です。フロントドアを開けて薪を投入することもできますが、本機では、この方法は推奨していません。

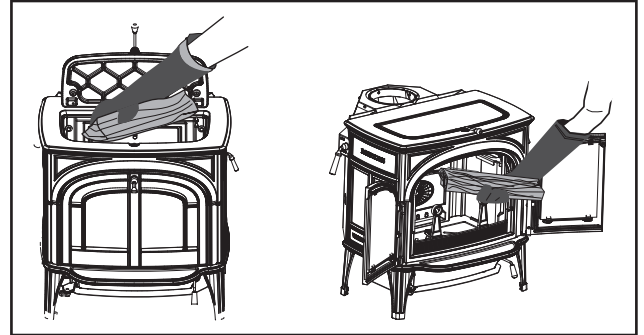


図2.5 薪の投入は通常トップから行い、着火時はフロントドアから行います。

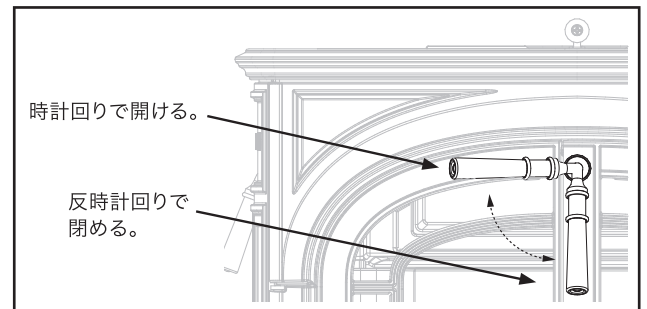


図2.6 フロントドアを開けるには、ハンドルを時計回りに回す。

フロントドアを開けるには、ドアハンドルに木製ハンドルを差し込み、時計回りに回してください。(図2.6) 閉める場合は常に左のドアから閉めます。右ドアのハンドルを左上(開いた位置)に回し閉めます。最後にハンドルを反時計回りに回しながらドアを押し込みます。ドアはわずかに引き込まれるような感じがします。ガラスの破損を避ける為に、ガラスを叩いたり、ドアを乱暴に閉めないでください。ドアハンドルは、使用していない時は左前脚後ろのハンドルホルダーにかけて収納します。

⚠ 警告！



火災の危険

- ・ドアが開いている時は、その場を離れないでください。
- ・必ず、フロントドアと灰受けドアが閉まった状態で使用してください。
- ・不安定な薪は火室から落ちて、火災の原因になることがあります。

警告！

安全と最大効率の為、全てのドアとグリドルは閉めて運転してください。

薪の補給

薪を追加投入する場合は、熾火が熱いうちに行います。炭を細かく砕いたり、熾火を叩いたり圧縮したりしないでください。ファイヤーバック下部が、灰などで塞がれていないことを確認してください。穴が塞がっていると、燃焼に影響します。熾火の中を空気が循環できるようにすることが重要です。熾火の塊が大きいほど、薪の下をより多くの空気が循環し、火力をより早く回復させることができます。

薪を投入する際、手と腕を保護するために、ストーブグローブを着用してください。熾火がまだ十分熱いうちに薪を追加します。細めの薪を混ぜると温度は素早く上昇します。薪の補給を上手に行うためには、以下の手順を参考にしてください。

1. ダンパーを開けます。
2. 灰受けドアを開け、溜まっている灰の量を確認します。必要であれば灰を捨て、灰受けドアを閉めます。
3. グリドルトップを開け、ファイヤーツールを使い火室内の熾火をリフラクトリーの開口部をカバーするように寄せます。火室内後方の壁に対するように薪を積み、小さめの薪から積んでいきます。グリドルトップを閉めます。
4. ストーブの表面温度が230°C以下の場合は、新しく投入した薪に完全に着火するまで数分待ちます。
5. ダンパーを閉じます。希望する火力になるまでエアークントロールを調節してください。

注記！

残っている熾火が比較的厚く(50~75mm)薪が十分に燃えている場合は新しい薪を投入できます(最初は細いものから投入してください)。グリドルトップとダンパーを閉じて、ご希望の火力になるよう初期エアークントロールを再設定します。これにより熱効率と煙の排出量のどちらも最適化されます。

適切な熾火は本機のパフォーマンスに大変重要な役割を果たします。後方のリフラクトリーの壁は、通常に作動していると、ほぼ真っ白になっています。それは温度が適切に上昇し燃焼システムが作動していることを示しています。もし後方の壁がクレオソートで黒くなっていたり、暗褐色になっている場合は、熾火が十分に高温になっていない、または大きくなっていない可能性があります。その場合は上記の手順を参考に薪の量を調節したり、エアークントロールを長時間高い設定にするなどして高温を保つようにしてください。薪の大きさや含水率もストーブの低温の原因を引き起こします。

警告！

灰受けドアを開けたまま操作しないでください。灰受けドアを開けたまま操作すると過剰燃焼になります。ストーブの過剰燃焼は大変危険で、火災やケガ、または命の危険につながる恐れがあります。

アンダイアンがガラスを守ります

薪が火室内で転がってしまっても、ガラス面を守るためにアンダイアンが付いています。クリアな炎を眺める為にも必要で、常につけておきます。アンダイアンはフロントドアを開けての薪の投入時に妨げになることがありますので、グリドルトップから薪の追加投入の方が便利です。アンダイアンとドアの間には薪を入れしないでください。

薪は高品質なものを

本機は天然の薪のみを燃料とするように設計されています。最適な薪だけを燃やしてください。

重要！

化学物質が使用されているものを燃やさないでください。灯油、ガソリン、アルコールなどの液体燃料は絶対に使用しないでください。

この取扱説明書に記載されていない燃料の使用、または過剰燃焼状態での使用は保証の対象外となります。

十分に乾燥させた薪を燃やすと、最良の結果が得られます。薪の長さは40cm以内の物を使用してください。適切に乾燥させていない薪は燃やさないでください。化学物質を含む建築材料は燃やさないでください。それらはストーブを破損させ、大気汚染に繋がります。塩分を含む流木は燃やさないでください。火室内の損傷に繋がります。

最も適切な薪は、少なくとも屋外で1年半程、通気の良い場所で乾燥させた、ナラ、クヌギ、サクラなどの広葉樹です。もし広葉樹が手に入らない場合は、スギ、ヒノキ、カラマツなどの針葉樹を燃やすこともできます。これらも適切に乾燥させる必要があります。割った薪は雨除けをした状態で乾燥させます。たとえ短期間であっても、薪はストーブから安全な距離を保ち、保管してください。

ストーブ温度計の役割

ストーブ温度計は、エアークントロールや薪の追加投入のタイミングを教えてください。(図2.7)

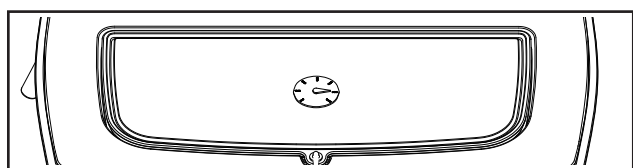


図2.7 ストーブ温度計はグリドルの中央に置いて温度を測定。

例えば、着火後に温度計が少なくとも230°Cを示しており、なおかつ十分な熾火ができている場合、ダンパーを閉じて良いでしょう。ただし、ストーブは煙突よりも早く暖まる点に注意して下さい。暖まった煙突は効率的な燃焼のポイントになります。温度計が175°C以下になったら、火力を上げる為にエアークントロールを開くか薪を追加するタイミングです。ダンパーが閉じている時に340°C以上になったら、空気の供給量を減らし、燃焼速度を遅くする必要があります。

以下の温度を運転の判断の目安にしてください。

- ・175°C～260°Cは中低温
- ・260°C～315°Cは中温
- ・315°C～340°Cは高温

本機を操作する上で、グリドルの温度が340°Cより高い状態で運転を続けると鋳物やホーローの損傷につながる恐れがあります。

エアークントロール

最適な運転のためのエアークントロール

エアークントロールの調整具合は、絶対というものはありません。燃料の質、必要な熱量、燃焼させたい時間によって、設置方法は異なります。

エアークントロールの設定は、個々の設置状況での“ドラフト”の影響、またはストーブから煙突を通して移動する空気の力にも影響を受けます。ドラフトは煙突の長さ、タイプ、位置、設置環境、周辺にある障害物といった要因から影響を受けます。ドラフトが強すぎると、ストーブの温度が高くなり、本体の破損につながります。一方、ドラフトが弱すぎると、バックパフ(煙の逆流)が起こったり、煙突の“詰まり”の原因となります。

ドラフトの過剰や過少は次の症状で判断できます。

ドラフトが強すぎる場合の症状

- ・燃焼の制御ができなくなる。
- ・ストーブの一部が真っ赤に過熱する 等

弱すぎるドラフトの症状

- ・ストーブと室内煙突から煙が漏れてくる。
- ・熱出力が上がらない 等

断熱性や気密性の高い住宅では、場合によっては、室内に空気が十分に供給されず、ドラフトが弱くなることがあります。その場合は、ストーブに近い窓を開け、必要な燃焼空気を取り込んでください。

燃焼空気の取り込み方法としては、外気を直接ストーブに取り込めるよう、ダクトをストーブに接続する方法もあります(外気導入)。初めてストーブを使用する際、エアークントロールの設定をいろいろと試した後、その記録を付けておくと、設定と給気量、熱出力との関係がわかります。それによりどんな設定が、どれほどの熱量や燃焼時間を生み出すか予測できるようになります。そのためには1～2週間ほどかかるかもしれません。ストーブの設置において、ドラフトが十分得られる場合は大量の燃焼空気は必要ありません。いかなる場合でも、エアークントロールを調整範囲以上に設定して火を焚くことは、ストーブの破損につながります。

灰の処理

灰受けドアを開けたまま使用しないでください。灰受けドアを開けたまま使用すると、過剰燃焼を引き起こします。過剰燃焼は大変危険で、本体の損傷や怪我、命の危険があります。

定期的に灰を取り除くことは、メンテナンスやストーブの耐久性のためにも重要です。灰が灰受け皿の上まで溜まったら灰を取り除きます。少なくとも1日1回は、灰の溜まり具合を確認してください。灰が溜まったら、ファイヤーツールを使い、灰をかき混ぜグレートから灰受け皿に落としますが、火室内の灰はすべて取り除かず、2~3cmほど残しておきます。灰を残すことによって次の着火がしやすく、また断熱効果もあり、火室内の保護にもなります。

重要！

薪を追加投入する前に灰受け皿の灰の量を確認します。灰の量が上部まで達していたら、下記の方法で灰を取り除きます。

- ・ダンパーを開けます。
- ・グリドルまたはフロントドアを開き、シャベルやポーカで灰を動かし、グレートの溝から灰を下の灰受け皿に落とします。
- ・グリドルまたはフロントドアを閉め、灰受けドアを開きます。(図2.8)灰受け皿は弧を描くようにストーブの外に出てきます。
- ・灰受け皿の上にカバーをスライドさせて乗せ、しっかりと閉まっていることを確認してください(図2.9)
- ・灰受け皿が水平になるように注意しながら、持ち上げて灰受け皿を取り外します。
- ・灰受け皿のカバーがずれないように、また灰が床に落ちないように灰受け皿を前に傾けないでください。
- ・ストーブを使用している場合は、灰受け皿を取り出したらすぐに灰受けドアを閉めてください。
- ・灰は、蓋の密閉できる金属製の容器に入れて、適切に処理してください。容器は、可燃物から離れた屋外で保管してください。
- ・灰受け皿を元の位置に戻し、灰受けドアを閉めてください。

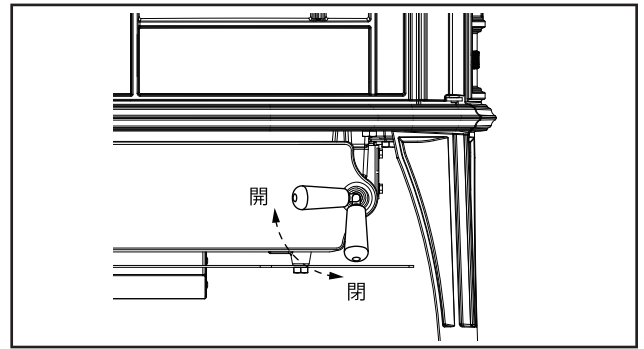


図2.8 灰受けドアのハンドルは、時計回りに回して開き、反時計回りで閉まります。

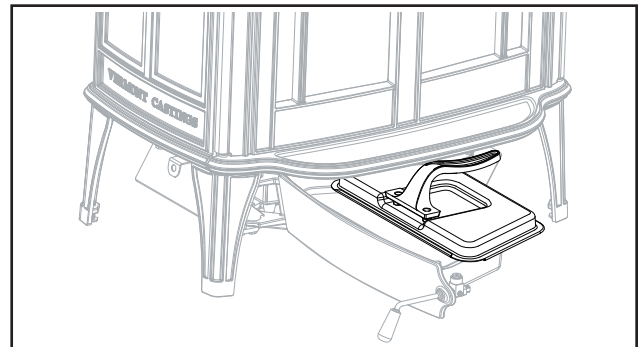


図2.9 灰受け皿を取り除く前に、カバーがしっかりとまわっているか確認してください。

警告！

灰受けドアを開いたままストーブを稼働しないでください。ドアを開けたまま稼働すると、過剰燃焼を起こし、ストーブ本体の損傷を引き起こします。また、保証の対象外となり、さらには火災の危険があります。

灰受け皿は定期的に空にしてください。頻度は本機の使用頻度によります。多くの薪を高い熱出力の設定で燃やすと、灰は早く溜まります。

灰は蓋が密閉できる金属製の容器に入れ、屋外で保管してください。容器は不燃性の床もしくは地面に置き、あらゆる可燃物から離してください。もし灰を地面に埋めたり、その他各自治体の指示する方法で廃棄する場合、灰が完全に冷めるまで密閉容器内で保管してください。

注意！

灰をストーブから捨てる際、掃除機で吸い込まないでください。灰は必ず、適切な方法で処理しなければなりません。

■ 排気煙の確認

煙突から出る煙の量を、定期的に確認してください。正常に作動していれば、煙は見えない状態になります。

⚠ 警告！



火災の危険

・ゴミや可燃性の液体燃料（ガソリンや灯油等）を燃やさないでください。

- ・加工処理された木材や塩分を含んだ流木を燃やさないでください。
- ・薪以外を燃やすと一酸化炭素が発生する恐れがあります。

病気や死に至る可能性があります。

⚠ 警告！



火災の危険

可燃物、ガソリン、その他の可燃性の液体を本体に近づけないでください。

- ・可燃性物質は発火する恐れがあります。
- ・可燃性物質をストーブの周辺に保管しないでください。
- ・ガソリン、灯油等の燃料をストーブの着火や薪の追加投入の際に使用しないでください。
- ・使用中は、上記のような可燃性の液体をすべてストーブ本体から十分離してください。

⚠ 注意！

初めてストーブに火を焚くときは、塗料の硬化と製造時に使用した油等の燃焼により、ストーブから煙と臭いが出ます。

煙と臭いを取り除くために、初めて使用する際は窓を開けてください。

- ・この臭いは、臭いに敏感な方には刺激臭と感ずる場合があります。
- ・煙探知機が作動することがあります。

■ 煙／CO感知器

法律で定められていない場合でも、煙／CO（一酸化炭素）感知器を設置することを推奨します。煙／CO感知器の説明書に従い、定期的にメンテナンスを行ってください。ストーブを設置している部屋に感知器を設置する場合は、ストーブからできるだけ離して設置してください。また、感知器の感度に応じて、着火時や灰を処理している時は、アラームをオフにするなどの対応をしてください。

■ 室内負圧の抑制

⚠ 警告！



窒息の危険

- ・室内が負圧の状態は、煙や煤、一酸化炭素がストーブから流出する原因となります。
- ・ストーブは安全のため、適切なドラフトが必要です。

室内が負圧になる状態は、ストーブが適切に作動するために必要な空気の供給が不足することで生じます。特に建物の低層階で起きやすくなります。

原因は以下の通りです。

- ・換気扇（トイレ、浴室など）
- ・レンジフード
- ・給湯器などの燃焼機器
- ・衣類乾燥機
- ・エアコン

負圧を最小限に抑えるためには：

- ・外気導入を使用する際は、吸気口の位置を、ストーブを使用する期間の外気の風向きに留意して設置してください。
- ・すべての燃焼機器に十分な外気を確保してください。
- ・エアコンをストーブ本体の近くに設置しないでください。
- ・廊下などの狭いスペースにストーブを設置することは避けてください。

■ドラフト管理

クレオソート

薪が低温で燃える時に生成される副産物がクレオソートです。煙の中に含まれており、煙がゆっくり煙突内を通り、その温度が150℃以下になると煙突内で凝固する可能性があります。凝固し蓄積したクレオソートは揮発しやすくなり、高温になると煙突内で火災を引き起こす恐れがあります。煙突のドラフトに影響する操作機能は、クレオソートの蓄積に影響を及ぼすため、良いドラフトを促すように機器の設置、操作をして、クレオソートの生成を最小限に抑えることが重要となります。クレオソートを蓄積させる主な要因は煙を冷やし、煙突内の通過速度を遅くすることですので、安全上の理由と機能性の観点からも、フルカラーのサイズに合わせて、煙突を設置することが必要になります。

燃料

薪の乾燥度合いが悪いと、ストーブの性能はフルに発揮できません。必ず1～1年半乾燥させた薪を使用してください。生木は水分が多く、熱の一部が生木の水分を蒸発させるために使われてしまいます。また、本来部屋を暖めるために使われる熱量がこれに取られてしまうだけでなく、クレオソートが付着しやすくなります。薪の含水率を計測器で測る方法もありますが、見た目や重さからおおよそ分かり、含水量20%以下が最適です。生木は手に取ってみると重量感がありますが、乾燥すると重さは半分以下になります。また、乾燥した薪は縮む為、薪の先端にひびが入っています。乾燥させた期間が長く、ひびが多いほど薪は乾燥しています。乾燥した薪は良好な燃焼状態となりますが、燃えすぎることもありますので、温度管理に十分ご注意ください。

バックパフ

バックパフとは、ドラフトが弱く燃焼速度に合わせて煙が排出できないとき起こる現象です。火室内で発生した煙が、一定の濃度と温度に達したときに点火され、「ボン」という音とともに煙が空気取り込み口より出てきます。バックパフは弱火で燃焼させるような春先に起こりやすくなります。バックパフが起きた場合には、バイパスダンパーを開け、エアークントロールを全開にして空気を沢山取り込み、勢いよく燃えるようにしてください。また、低燃焼時にたくさんの薪を投入すると、未燃焼ガスが多く発生し、バックパフが起こりやすくなります。

ドラフトテスト

ドラフトを簡単に調べるには、バイパスダンパーを閉じ空気の流れが安定するまで2～3分待ったのち、エアークントロールを開閉して火力の調整ができるか確認します。結果は常に一定ではありません。(エアークントロールの設定の変更が炎に及ぼす影響を見るには数分待つ必要があります。)火力が調整できない場合は、まだダンパーを閉めていいほどのドラフトが発生していないことを意味するので、再度バイパスダンパーを開け、ドラフトが強くなるまで待ってください。空気の調整や薪の投入量など関連付け、運転状況を記録すると、設置状況にあった燃焼方法がわかります。

結論

薪を焚く作業は、科学というより『芸術』です。もちろん芸術には技術は伴わなくてはなりません。設置場所や薪の種類も様々なように、運転方法も変わってきます。薪ストーブの性能を発揮させるには、ご自身で技術(タイミング)を習得しなければいけません。運転状況を記録することで、様々な因果関係や季節の変化がもたらす影響についても理解できるようになり、満足のゆく暖房効果を得ることができるようでしょう。

安全のために

重要！

ドアを開けたままストーブを使用しないでください。ドアを開けたままの使用は過剰燃焼を引き起こします。ストーブの過剰燃焼は大変危険で、深刻な破損やけが、火災の危険があります。ストーブのどこかが、膨らんでいたなら過剰燃焼状態です。

安全について

本機を正しくご使用いただけない場合は火災の危険があります。安全のためにこの取扱説明書に従い、操作してください。

火が小さいうちに消し止める為に、消火器をすぐ手に取れる位置に配置してください。消火器は使用期限内であることをお確かめください。家族全員に設置場所と使用方法を周知してください。ストーブグローブをストーブ近くに配置したり、お子様がいらっしゃる家庭は安全柵の設置等を行ってください。

ストーブや煙突で火災が起きた場合

- ・すぐに家族を避難させてください。
- ・消防署に通報してください。
- ・火災の勢いが小さい場合は、本体のすべてのドアを閉め、火室内へ入る空気を遮断することで、火災を最小限に抑えることに繋がります。
- ・ストーブを再び使用する際は、火災による破損がないか、ストーブ本体と煙突を点検してください。

ゴミや化学薬品、液体燃料を使用して着火しないでください。ガソリン、灯油等の液体燃料は絶対に使用しないでください。これらの液体燃料は、使用中は本機に近づけないでください。

注意！

本機は使用中高温になります。衣類、家具等の可燃物を近づけないでください。また、やけどの危険がありますので、お子様が近寄らないようにご注意ください。



3 メンテナンス

ストーブ本体及び、煙突を末永くお使いいただくために、定期的なメンテナンスが必要です。メンテナンスを行う場合はストーブ本体が完全に冷えてから行ってください。

■ 鋳物表面のお手入れ

表面についた灰やほこりは乾いた布で軽く払います。濡れた布を使用すると錆が発生しやすくなります。ストーブの塗装は必要に応じて補修ができます。補修する際は、まず初めに補修する部分の周辺をマスキングします（ホーロー部分、ガラス、ハンドルなど）。塗装する部分をワイヤーブラシできれいにします。その後、ストーブ用耐熱塗料を少しずつ塗っていきます。一度に厚く塗るよりも、薄く2度塗りの方が綺麗に仕上がります。グリドルは使用していると黒ずんできますが、これは通常のことです。気になる場合は、目の細かいワイヤーブラシやスチールたわしで掃除できます。

■ ホーロー表面のお手入れ

汚れやシミを落とすには、乾いた布や少し湿らせた布、または柔らかなブラシを使用します。それでは落とせない汚れの場合は、台所用洗剤かホーロー用の磨き粉を使用します。ホーローが欠けたり、傷ついた時は、その箇所にホーロー用補修パテを塗って乾燥させます。乾燥後やすりでこすり、周囲と馴染むようにします。その後、ホーロー用のタッチアップ塗料を塗ってください。塗料が完全に乾くまでストーブは使用しないでください。

■ ガラスのお手入れ

ガラスへの付着物はほとんどが高温燃焼時に燃えてしまします。しかしガラス表面に長く付着したままの灰は、定期的に掃除しないと固着する恐れがあります。

ガラスの手入れは、以下の手順に従って行ってください。

- ・ ガラスが完全に冷えていることを確認します。決して熱いうちには行わないでください。
- ・ ストーブ専用のガラスクリーナーを使用します。研磨材入りのクリーナーは使用しないでください。クリーナーは少量使用し、ストーブの他の部位に付着しないように注意してください。
- ・ ガラスクリーナーをしっかりと拭き取ります。
- ・ ガラスを完全に乾燥させてください。

ガラスが破損した場合

ガラスが破損した場合は絶対にストーブを使用しないでください。ガラスを交換する際は、メーカー純正の耐熱ガラスを使用し、それ以外は使用しないでください。

ガラスを取り外す

1. ドアの内側に設置されている1/4-20"のボルトを外し、左右のドアアッセンブリを外します。(図3.1)

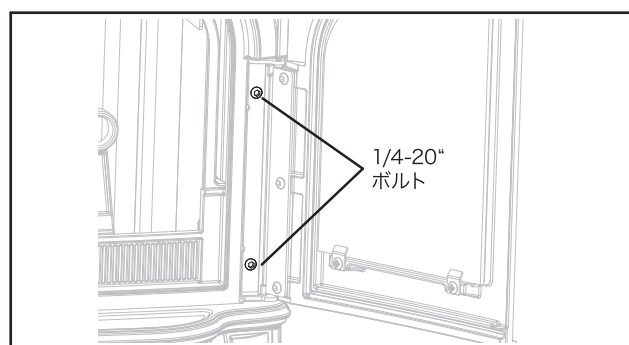


図3.1 ドア内側のボルト位置。

2. 外したドアは下向きにして、タオルなどを敷いた水平な場所に置きます。ホーロー加工のドアは特に注意して作業してください。
3. ガラスを固定しているクリップのネジを外し、クリップを外します。
4. 慎重に壊れたガラスを取り外します。

ガラスを取り付ける

ガラス回りのガスケットを点検してください。ガスケットはガラスをしっかり密閉させる為に、柔らかく弾力性が必要です。硬くなっていたり、潰れている場合はガスケットの交換が必要です。

1. ガラスをガスケットの中央に合わせます。
2. 両方のドアのガラスをクリップで固定し、クリップのネジを締めます。(きつく締めすぎるとガラスの破損に繋がる恐れがあります。) (図3.2)

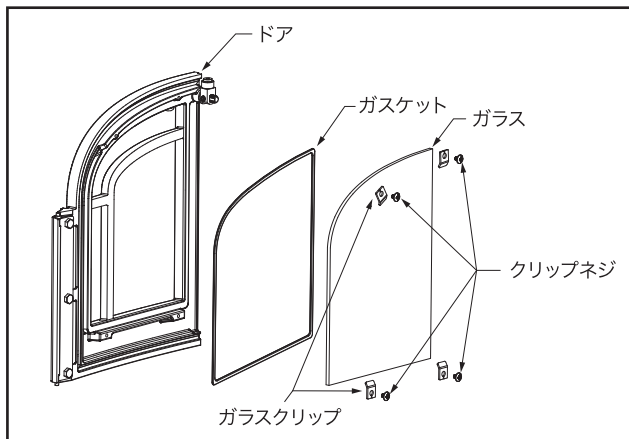


図3.2 ドアガラスの分解図。

3. ドアを元の位置に戻します。
4. ドアを開閉し、正しく作動するかを確かめ、必要な場合は調整してください。

ダンパーの調整

ダンパーにかかる圧力は、ダンパーとダンパーハウジングを密閉させるために、調整可能になっています。

ダンパーを調整するには

1. グリドルを取り外します。ダンパーの中心にあるロックナットを緩めます。(図3.3)

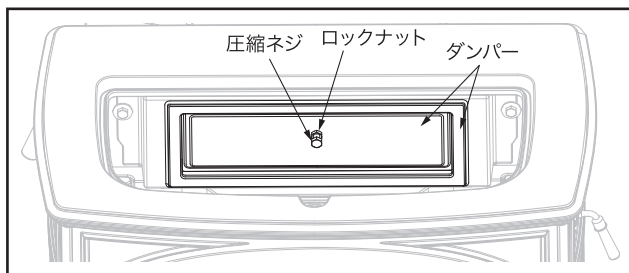


図3.3 六角レンチを使用してのダンパーの調整。

2. 付属の六角レンチを使用して、圧力ネジを時計回りに約半回転させます。
3. ロックナットを締めます。ナットを締める時に圧縮ネジが回らないように注意してください。その後ダンパーの調整具合を確認してください。

ダンパーハンドルをきつく締める

ストーブ左側にある木製ハンドルで、ダンパーの開閉を行います。ハンドルはダンパーロッドにネジで固定しており、木製ハンドルもハンドルにネジで固定してあります。どちらも定期的にネジが緩んでいないかを確認し、必要であれば締め直してください。

ドアラッチの調整

ストーブのフロントドアはふいに開いてしまわないように、また火室から空気が漏れないようにしっかりと閉じる必要があります。ドアハンドルはドアが閉じている時は下向きになります。ストーブを使用していくと、ドア回りのガスケットが潰れる為、ドアラッチを調整する必要があります。

調整は以下の手順で行ってください。

1. ロックナットを9/16"のレンチで時計回りに回し外します。(後程使用するため取っておいてください)
2. 1/8"の六角レンチで固定ネジを緩めます。
3. ツメを180度回転させ、ロックナットを元に戻し固定ネジをきつく締めます。(図3.4)
4. 平ワッシャーを外すことで、さらに調整することができます。(図3.4)

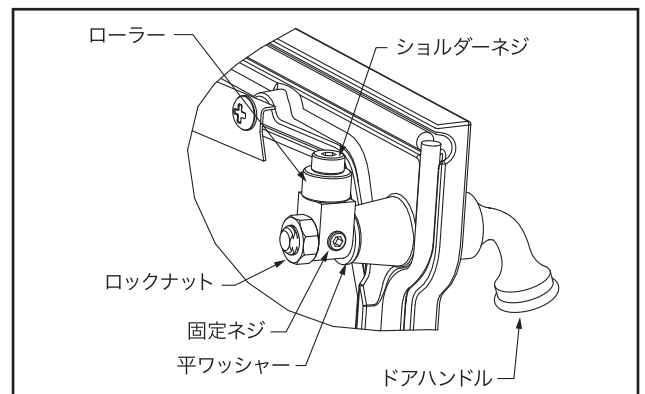


図3.4 ドアラッチの構造。

密閉具合を確認するには、薄い紙を一枚挟んでドアを閉め、少しの力で引き抜ける場合はガスケットが緩い状態です。微調整を繰り返し、ベストな状態へ調整してください。ラッチを調整してもドアが密閉できない場合、密閉できない箇所のガスケットを調整します。ガスケットが持ち上がるように、ガスケット下の隙間にガスケットセメントを充填して調整します。この方法でもドアが密閉できない場合はガスケットを交換してください。交換方法は下記“ガスケットの交換”をご確認ください。

■ ガスケットの交換

本機では部品間がしっかりと密閉されるようにグラスファイバー製のガスケットロープを使用しています。ガスケットロープは使用していくうちに、特に可動部分ではもろくなったり、圧縮されて密閉度が落ちる為、定期的な交換が必要となります。交換ガスケットロープのサイズ（直径）と関連パーツは以下の通りです。

5/16“（ワイヤー付ガスケット）：グリドル

3/8“：ダンパーフレーム

5/16“：フロントドア

3/8“：灰受け皿ドア

3/16“：ドアガラス

ガスケットの交換が必要な場合は、純正の交換ガスケットを使用します。火が消えてストーブが完全に冷めてから作業を行ってください。作業の際は安全ゴーグルと防塵マスクを着用してください。ガスケットの交換手順は、ガスケットの位置に関係なく全て同じです。以下ご参照ください。

1. 現在付いているガスケットを片方の端を握って、力を入れて引っ張ります。（図3.5）

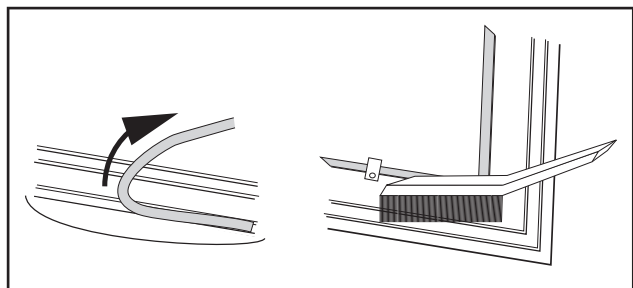


図3.5 ガスケットを取り除きワイヤーブラシで溝をきれいにする。

2. ワイヤーブラシやドライバー等の先端部分で溝に残っているセメントやガスケットのくずを掻き出します。必要に応じてセメントの頑固な堆積物を取り除きます。（図3.5）
3. ガスケットを接着する前にまずガスケットを溝に埋めて長さを確認します。実際の寸法より3～5cm多めに残しカットする箇所に印をつけます。
4. 一度取り外し、印をつけたところでカットします。切れ端からほつれてこないように両端を少し捻じります。
5. きれいに掃除した溝の中に切れ目のないように約3mm幅にシリコン又はセメントを入れます。（図3.6）

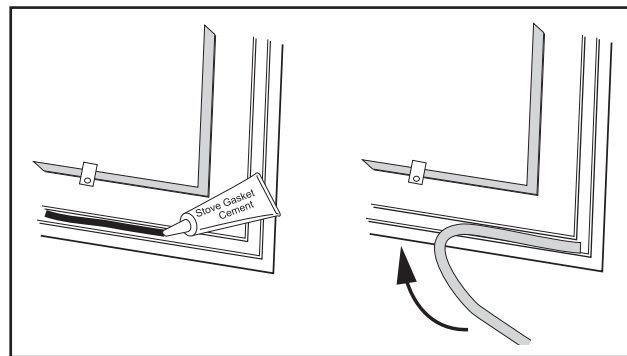


図3.6 ガスケットシリコン又はセメントを入れ、ガスケットを定位置に押し込む。

6. ガスケットを一方の端から溝に押し込んでいきます。（図3.6）ガスケットを一巡させて余分を切り落とす際は端同士がきっちりと接触するようにします。余分な部分を切り落とす際はほつれた面は切り落とし、きれいな面同士が接触するように注意します。端同士が重なったり、端がほつれたままにしないでください。
7. ガスケットが溝に均等に入るよう、しっかり押し込みます。
8. 溝からはみ出たシリコン又はセメントをきれいに拭き取り、その後完全に乾燥させてください。
9. ストーブのドアは新しいガスケットを装着したのち、再調整が必要な場合があります。最初は新しいガスケットの厚みに慣れさせるため、ラッチを少し緩める必要があるかもしれません。その場合、数週間後にまた圧縮具合を調節し、締め直してください。

その他の部分のガスケット

可動部分以外に設置されているガスケットは、それぞれの部品を密閉するためのものです。可動部位にあるガスケットほど摩耗や劣化はしにくく、関連部分を分解して元に戻す際以外での交換の頻度は極めて低くなります。本体を分解する際は、ストーブ購入先の販売店にご依頼ください。

■ 煙突システム

本機はクレオソートの蓄積を大幅に減らすように設計されています。しかし、定期的な煙突掃除やメンテナンスは必要です。安全性、ストーブの性能維持、煙突の保護のためには、定期的な点検を行う必要があります。一年に一回は煙突掃除を行いましょう。掃除を怠ると重大な煙道内火災が発生する可能性があります。

重要!

煙突の点検と清掃は頻繁に行ってください。特定の使用条件下ではクレオソートの蓄積が急速に発生することがあります。

ゆっくり燃える薪は、タール、有機蒸気、湿気を発生させ、これらが結び付くとクレオソートになります。クレオソートはゆっくり燃える時に起こり、比較的低温状態の時に煙突内で固体化し、残留物が蓄積していきます。これに着火すると煙道内火災が発生し、煙突内に損傷を与え、近くにある可燃物に引火する恐れがあります。煙突内に相当量（約3mm）のクレオソートの層が蓄積していたら、煙道内火災のリスクを減らすため、除去しなければなりません。万が一煙道内火災が発生した場合に備え、以下の対処方法を周知してください。

- ・ ダンパーとエアコントロールレバーを閉じる
- ・ 家からすべての人を退去させる
- ・ 消防署に電話する

シーズン中は日常のお手入れに加え、2週間に1度の割合で煙突の点検を行ってください。点検をする際はストーブが完全に冷えていることを確認します。鏡とライトを使って煙突の差し込み口から煙突の中を照らして確認します。この方法ができない場合は、煙突をストーブから外して確認してください。煙突掃除は煙突径と同じサイズのブラシを使って行います。煙突内部を自在に上下できる柔軟なロッドを使って、付着物が煙突下部に落ちるようにこすります。取り外し可能な煙突は屋外に出し、硬いワイヤーブラシ等で付着物をこすり落とします。掃除が終わったら煙突を元に戻します。自身で点検や掃除ができない方は、ストーブ購入先の販売店にご依頼ください。



メンテナンススケジュール

本体のメンテナンス

日常的に

- ・ ドアガラスに付着した煤をきれいに落としてください。
- ・ 灰は灰受け皿がいっぱいになったら捨ててください。1日1回は蓄積量を確認してください。
- ・ ストープ周辺に紙や布などの可燃物を置いていないか確認してください。

2か月ごとに

- ・ ドアハンドルが正常に作動するか確認してください。ガスケットはしばらく使用していると圧縮されます。必要に応じてドアラッチを締め直してください。
- ・ 各箇所のボルトが緩んでいないか確認し、必要であれば締め直してください。
- ・ オプションの触媒を使用している場合、触媒への灰の蓄積と損傷を確認してください。必要であれば、清掃、交換してください。

シーズン終了後

- ・ ガスケットが摩耗していないか確認し、必要であれば交換してください。
- ・ 灰受け皿の灰をきれいにし、湿気吸収剤（猫砂等）を入れ本体を乾燥させます。
- ・ 各ヒートシールドに付着した灰や煤を取り除きます。表面は汚れているよりきれいにしている方が、熱反射がよい為です。
- ・ ストープ表面に劣化がある場合は、タッチアップペイント等で補修します。
- ・ オプションの触媒を設置している場合は、触媒に溜まった灰を確認し、きれいに落とします。煙突の掃除と一緒にすると効率的です。二次燃焼室内を確認し、灰が溜まっていたら、掃除機で吸い取ります。（図3.7）

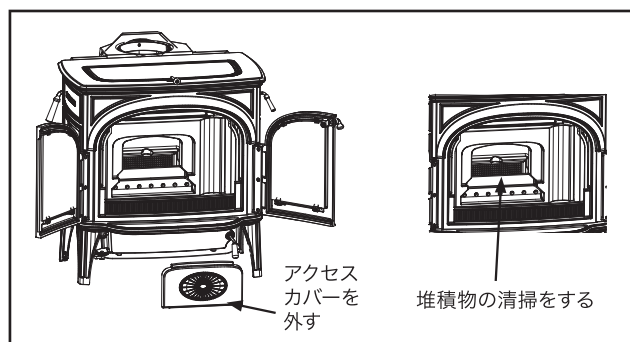


図3.7 二次燃焼室内に蓄積した灰を点検、清掃してください。

煙突のメンテナンス

2週間ごとに

- ・ 煙突内を点検し、必要であれば清掃してください。

2か月ごとに

- ・ 煙突内を点検します。煙突内の水平部と曲がり特に注意深く点検します。汚れている場合は清掃してください。

シーズン終了後

- ・ 取り外し可能な煙突は、屋外へ持ち出し点検と清掃をします。
- ・ その他の煙突の劣化を調べます。破損した部分があれば交換してください。煙突内部の汚れはしっかりと落としてください。必要であればストーブ購入先の販売店にご依頼ください。

触媒機能について（オプション）

⚠ 注意！

薪は天然の木材のみを使用してください。防腐処理された木材や金属、アルミ、プラスチック、ごみ、硫黄、油などを使用すると触媒を破損する恐れがあります。

本機は触媒の使用の有無にかかわらず高効率で燃焼するように設計されていますが、触媒を使用するとより高い燃焼効率を得られます。以下の内容は、オプションで触媒を取り付けた場合のみ適用されます。

触媒が機能しなくなった場合は、交換するか取り外して使用することもできます。本体に機能しなくなった触媒が取り付けられていると、煙が顕著に発生します。その場合は交換するまでの間は取り外して使用することで、高効率燃焼を維持することが出来ます。

この取扱説明書に沿って操作していただいた場合、通常の使用で触媒はおおよそ5～7年持ちます。（燃焼する薪の量に応じて変化します。）ただし、定期的に触媒を点検し、正常に機能していることを確認し、交換のタイミングを見極めることが必要です。機能していない触媒を使用し続けることは、燃焼効率の低下とクレオソートの排出量の増加をもたらします。

触媒機能の確認

本機の触媒機能を確認する最良の方法は、触媒を使用した場合とそうでない場合の煙突から出る煙の量を確認することです。次の手順で行ってください。

- ・ 火室内で薪がよく燃え、触媒がしっかり機能したのち、ダンパーを閉めて煙が二次燃焼室へ流れたら、外へ出て煙突から出る煙を観察します。
- ・ その後ダンパーを開け、再度外へ出て煙を観察します。

ダンパーを開いて、煙が触媒を通過しない時は明らかに煙の量が多く見えるはずですが、水分の多い薪を燃やした時に発生する蒸気と間違えないように注意してください。両者の違いは、蒸気は素早く空中に消えますが、煙はすぐには消えません。高温で燃えるストーブ内に5～8cmほどの熾火ができていない状態で、触媒が稼働します。

このテストで問題があった場合は、他の要因（天気や薪の質の変更）についても考慮する必要があります。暖かい天気では寒い冬の天気の時よりもドラフトが弱く、火は活発に燃えません。このような状況の時は少量の薪を高温で焚く方法がよいでしょう。

⚠ 注記！

よく乾燥していない生木を燃やすと燃焼効率が低下します。水分量の多い薪を使用する場合は、高温で焚かなければいけなくなり、ハニカム構造の触媒に熱衝撃が加わり、触媒の基盤に亀裂が入ったり、破損する恐れがあります。

触媒の点検

アクセスカバーを取り外し、触媒を持ち上げながら手前に引いて取り外します。（図3.8）

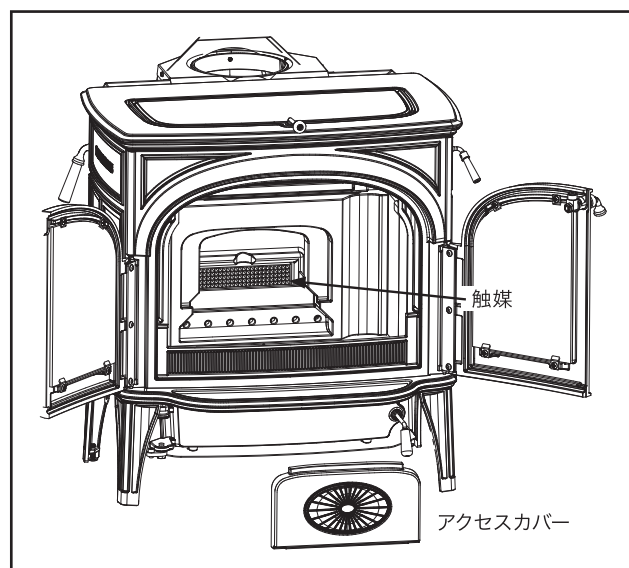


図3.8 触媒の点検。

触媒を清掃する

1. ハニカム構造の触媒部分に灰が蓄積していないか確認します。明らかに灰が蓄積している場合は、触媒を取り出し、空気を吹きかけて飛ばします。触媒を掃除する際は掃除機やエアダスターなどを使用して灰を飛ばしてください。細い棒などで触媒内部をこすらないでください。
2. 触媒の劣化や損傷を確認します。髪の毛ほどのヒビは機能的には問題はありませんが、無傷の状態が望ましいです。触媒が割れたり欠けたりしている場合は、取り外すか交換が必要です。ストーブ購入先の販売店にて新しいものと交換してください。
3. 触媒の状態に問題がなければ、交換の必要はありませんので元の位置に戻してください。

4 トラブルシューティング

正しい設置、操作、メンテナンスを行うことで、薪ストーブは大きなトラブルなく長期間使用することができます。万が一トラブルが発生した場合は、以下を参照してください。

| トラブル | 可能性のある原因 | 解決方法 |
|---------------|------------------|--|
| 薪が燃えない | 薪が湿っている | 十分に乾燥した薪をご使用ください。適正な薪についてはP8をご参照ください。 |
| | 太い薪のみを使用している | 細い薪から焚き始めてください。焚き方はP6をご参照ください。 |
| | ダンパーを閉じている | 焚き始めは必ずダンパーを開けてください。 |
| | 燃焼用空気を絞っている | エアークントロールレバーを全開にしてください。 |
| | 煙突が詰まっている | 煙突掃除を行ってください。シーズン中は煙突トップだけが詰まることもありますので、トップの掃除も行ってください。 |
| | 触媒が詰まっている | 触媒の点検・清掃を行ってください。方法はP19をご参照ください。 |
| | 換気扇を使用している | 薪ストーブを焚く際に換気扇を使用していると、煙突内のドラフト(上昇気流)が弱まり燃えにくい場合があります。換気扇の使用を止めるか、窓を少し開けてください。 |
| ダンパーを閉めると燃えない | ダンパーを閉めるタイミングが早い | グリドルの中央に置いたストーブ温度計が230°Cに達していることを確認し、ダンパーを閉めてください。 |
| | 触媒が詰まっている | 触媒の点検、清掃を行ってください。方法はP19をご参照ください。 |
| | 煙突が詰まっている | 煙突掃除を行ってください。シーズン中は煙突トップだけが詰まることもありますので、トップの掃除も行ってください。 |
| 薪が早く燃えてしまう | ダンパーを開けたままにしている | グリドルの中央に置いたストーブ温度計が230°Cに達していることを確認し、ダンパーを閉めてください。 |
| | 燃焼用空気が全開のまま焚いている | エアークントロールレバーで給気を調整してください。 |
| | ドアを開けたまま焚いている | ドアを開けたまま燃焼させると、空気を大量に取り込み、薪の燃焼を促進させてしまいます。フロントドアと灰受けドアが閉まっていることを確認の上、ご使用ください。 |
| | ガスケットが消耗している | ガスケットを交換してください。ガスケットが消耗していると、隙間から空気を取り込み、薪の燃焼を促進させてしまいます。点検・交換方法はP16をご参照ください。 |
| | 煙突が長すぎる | 煙突が長すぎると、ドラフト(上昇気流)が強くなりすぎ、必要以上に燃焼を促進させてしまいます。その場合、煙突ダンパーを追加することもできますので、詳しくはストーブ購入先の販売店にご相談ください。 |

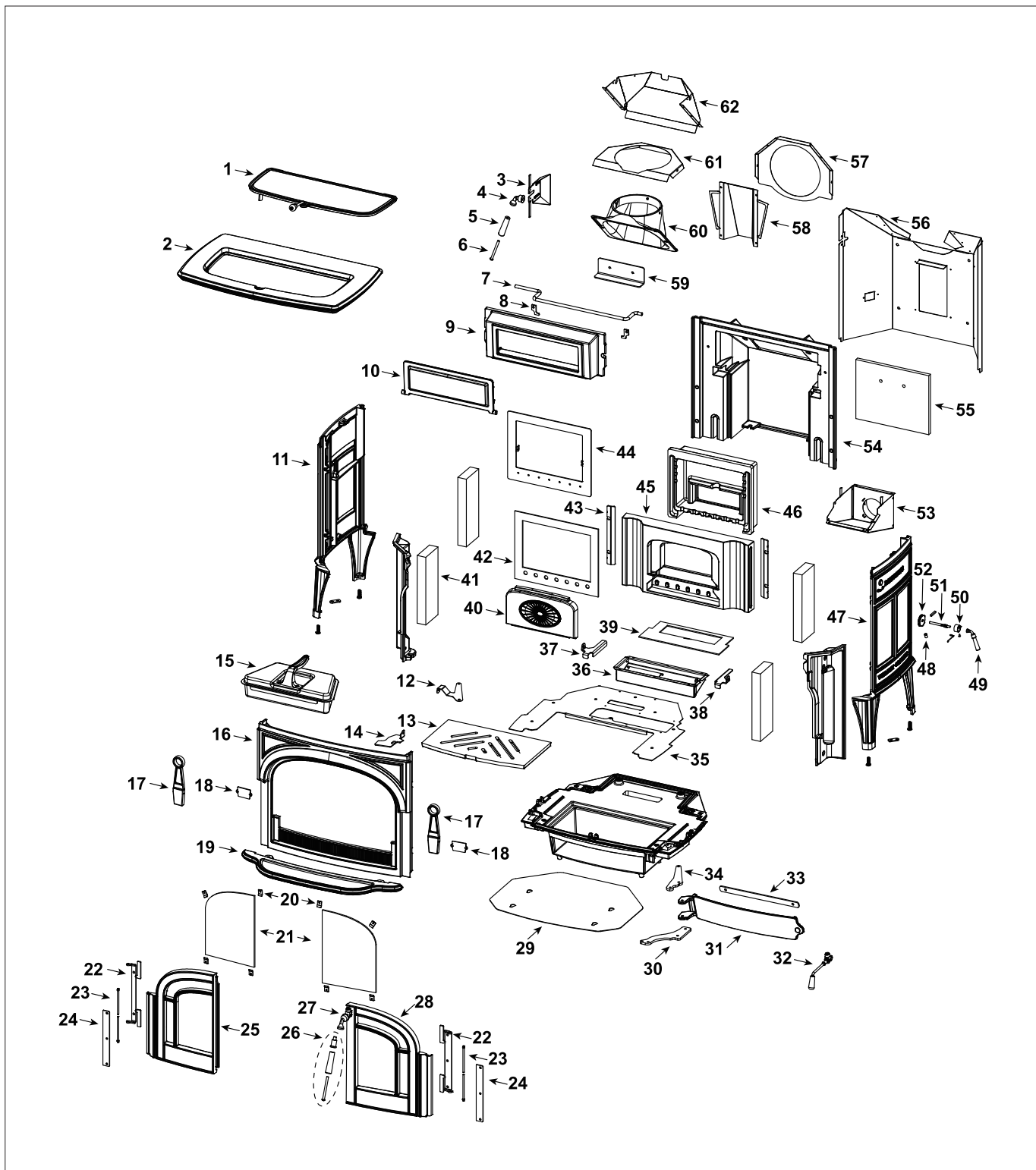
| トラブル | 可能性のある原因 | 解決方法 |
|-----------------------|--------------------------|--|
| 煙が逆流する | 煙突が詰まっている | 煙突掃除を行ってください。シーズン中は煙突トップだけが詰まることもありますので、トップの掃除も行ってください。 |
| | 触媒が詰まっている | 触媒の点検、清掃を行ってください。方法はP19をご参照ください。 |
| | 強風が吹いている | 強風が吹くことで煙が逆流することがあります。この場合、煙突を延長させたり、トップを交換する等の方法がありますので、詳しくはストーブ購入先の販売店にご相談ください。 |
| | 煙突の曲がりが多い・横引きが長い | 煙突は曲がりの数が多い場合や横引きが長いと、ドラフト（上昇気流）の障害となります。結果、煙突が暖まらず煤やタールが溜まりやすくなります。煙突をしっかり暖めてドラフトを強くしてください。改善されない場合は、ストーブ購入先の販売店にご相談ください。 |
| | 換気扇を使用している | 薪ストーブを焚く際に換気扇を使用していると、煙突内のドラフト(上昇気流)が弱まり燃えにくい場合があります。換気扇の使用を止めるか、窓を少し開けてください。 |
| ガラスが曇る | 薪が湿っている | 湿った薪を燃やすと、クレオソートがガラスに付着し、曇ってしまいます。十分乾燥した薪をご使用ください。適正な薪についてはP8をご参照ください。 |
| | エアークontrolレバーを絞るタイミングが早い | 低温状態で空気を絞ると、不完全燃焼となり煤やタールが発生しやすくなります。焚き方についてはP6ストーブの調整をご参照ください。 |
| | ダンパーを閉めるタイミングが早い | グリドルの中央に置いたストーブ温度計が230°Cに達していることを確認し、ダンパーを閉めてください。 |
| | 触媒が詰まっている | 触媒の点検、清掃を行ってください。方法はP19をご参照ください。 |
| | ガスケットが消耗している | ガスケットを交換してください。ガスケットが消耗していると、隙間から空気を取り込み、薪の燃焼を促進させてしまいます。点検・交換方法はP16をご参照ください。 |
| 煙突が早く詰まってしまう | 薪が乾燥していない | 十分に乾燥した薪を使用してください。入手困難な場合は、細かく割ってご使用ください。 |
| | 燃焼温度が低い | 低温で使用すると、不完全燃焼となり煤やタールが発生しやすくなります。ストーブを焚く際は、グリドル中央に置いたストーブ温度計で200°C以上でご使用ください。 |
| | 煙突の曲がりが多い・横引きが長い | 煙突は曲がりの数が多い場合や横引きが長いと、ドラフト（上昇気流）の障害となります。結果、煙突が暖まらず煤やタールが溜まりやすくなります。煙突をしっかり暖めてドラフトを強くしてください。改善されない場合は、ストーブ購入先の販売店にご相談ください。 |
| 温度が上がらない (暖かにならない) | 薪が湿っている | 十分乾燥した薪をご使用ください。適正な薪についてはP8をご参照ください。 |
| | 薪の量が足りない | 適正な薪の大きさ、量についてはP6薪の着火作業をご参照ください。 |
| | ダンパーを閉めるタイミングが早い | グリドルの中央に置いたストーブ温度計が230°Cに達していることを確認し、ダンパーを閉めてください。 |
| | 燃焼用空気を絞っている | エアークontrolレバーを全開にしてください。 |

DAUNTLESS FLEXBURN

ダントレス フレックスバーン パーツリスト

Model

- 2235 Classic Black
- 2237 Majolica Brown
- 2238 Bordeaux (Red)



| Description | | Part Number | | | |
|-------------|---|---|--------------------|----------------|-----------------|
| | | | | | |
| 1 | Griddle Assembly w/Brackets | SRV1-10-586134 | | | |
| 1.1 | Griddle Brackets (Includes Left & Right, Dowel Pins & Retainers) | SRV3000731 | | | |
| | Dowel Pin | 30007368 | | | |
| 1.2 | Griddle | 4-00-586134A | | | |
| 1.3 | Handle Assembly, Griddle | 1-00-586170 | | | |
| | Knob, Griddle | 1600661 | | | |
| | Bushing, Griddle Handle | 1201900 | | | |
| | #10 External Tooth Lock Washer | 3-30-0001 | | | |
| | 5/16" Gasket (Wire) | GKGG | | | |
| 2 | Top | Classic Black | 4-00-586135A | | |
| | | Majolica Brown | 4-00-586135-31A | | |
| | | Bordeaux (Red) | 4-00-586135-33A | | |
| | 3/8" Gasket | GK38 | | | |
| 3 | Cover, Damper Rod | SRV2-00-586191 | | | |
| 4 | Damper Steel Handle w/Set Screw | 30002720A | | | |
| 5 | Handle, Damper | 1600664 | | | |
| 6 | Philips RD HD 1/4-20x3 | 1201310 | | | |
| 7 | Damper Rod | SRV3-40-586164 | | | |
| | Damper Adjuster | SRV2-00-586201 | | | |
| 8 | Damper Shaft Retainers | SRV2-00-586186 | | | |
| 9 | Damper Frame | 4-00-586184A | | | |
| | | 3/8" Gasket (Inside) | GK38 | | |
| | | 3/8" Gasket (Outside) | GK38 | | |
| 10 | Damper Plate | 4-00-586200A | | | |
| | | CS Hex Head 1/4-20 x 3/8 | 1201337 | | |
| | | Screw 1/4-20 x 1/2 Black | 1201338 | | |
| | | Screw 1/4-20 x 1 Black | 1201376 | | |
| | | Hex Jam Nut, 1/4-20 | 3-30-8015 | | |
| | | Fasteners for Damper Assembly to Back Casting | | | |
| | | Screw 1/4-20 x 1 Black | 1201376 | | |
| | | Flat Washer | 1202470 | | |
| | | Nut, Hex | 1203210 | | |
| | | 11 | Side, Left | Classic Black | 4-00-586123A |
| | | | | Majolica Brown | 4-00-586123-31A |
| | | | | Bordeaux (Red) | 4-00-586123-33A |
| | | | LVL Bolt, 1/4-20x1 | 1201745 | |
| | 3/8" Gasket | GK38 | | | |
| 12 | Front Handle Holder | SRV2-00-586197 | | | |
| 13 | Ash Grate | 3-00-586122A | | | |
| 14 | Air Control Baffle | SRV2-00-586148 | | | |
| 15 | Ash Pan Assembly | 30007339 | | | |
| 16 | Front | Classic Black | 4-00-586121A | | |
| | | Majolica Brown | 4-00-586121-31A | | |
| | | Bordeaux (Red) | 4-00-586121-33A | | |
| | 3/8" Gasket | GK38 | | | |
| 17 | Andiron | 3-00-586128A | | | |
| 18 | Mounting Plate, Andiron | SRV2-00-586169 | | | |
| | | HHCS 1/4-20x3/8 | 1201337 | | |
| 19 | Ash Lip | Classic Black | 3-00-586144A | | |
| | | Majolica Brown | 3-00-586144-31A | | |
| | | Bordeaux (Red) | 3-00-586144-33A | | |
| | TRS HD PH 10-24 x 1/2 | 1200998 | | | |
| | Glass Clip | SRV2-00-586207 | | | |
| | Glass Clip Screw, 10-24x1/4 | 1200980 | | | |
| 21 | Glass, Load Door | SRV3-40-586138 | | | |
| 22 | Door Hinge Set, Left & Right | SRV2-00-586204 | | | |
| 23 | Door Pins | 30002727 | | | |
| 24 | Hinge Clamp Plate | SRV2-00-586205 | | | |
| | | BHSCS 1/4-20X3/8 | 3-30-3014 | | |
| 25 | Door, Left | Classic Black | 4-00-586126A | | |
| | | Majolica Brown | 4-00-586126-31A | | |
| | | Bordeaux (Red) | 4-00-586126-33A | | |
| | 5/16" Gasket | GK516 | | | |
| | BHSCS 1/4-20 x 3/8 | 3-30-3014 | | | |

| Description | | Part Number | |
|----------------|--------------------------------------|-----------------------------|-----------------|
| 26 | Wood Handle w/Lifter | 30004175K | |
| | Damper Handle | 1600664 | |
| | Damper Handle Screw | 1201310 | |
| | Insert Lifter | 30002714 | |
| 27 | Latch Assembly, Front Door | SRV1-10-586145 | |
| | Front Steel Handle/Shaft | 30002717 | |
| | Spring Washer | 63D0069 | |
| | Pawl Assembly | 30005157 | |
| | Flat Washer, 10mm | 1202560 | |
| | Nut Jam, 3/8-16 Top Lock | 1203290 | |
| | 28 | Door, Right | Classic Black |
| Majolica Brown | | | 4-00-586127-31A |
| Bordeaux (Red) | | | 4-00-586127-33A |
| | 5/16" Gasket | GK516 | |
| | BHSCS 1/4-20 x 3/8 | 3-30-3014 | |
| 29 | Bottom Heat Shield | SRV2-00-586165 | |
| 30 | Lower Mount Bracket, Ash Door | SRV2-00-586143 | |
| | | Washer 5/16 | 7000-579 |
| | | Screw 1/4-20 x 3/4, Black | 1201374 |
| 31 | Ash Door | 4-00-586206A | |
| | | 3/8" Gasket | GK38 |
| | | | |
| 32 | Handle Assembly, Ash Door | SRV1-10-1600663 | |
| 32.1 | Handle, Ash Door | 1600663 | |
| 32.2 | Shaft, Handle | 30005301 | |
| 32.3 | Spring Washer | 63D0069 | |
| 32.4 | Flat Washer, 10mm | 1202560 | |
| 32.5 | Pawl Assembly | 30005157 | |
| 32.6 | Nut Jam, 3/8-16 Top Lock | 1203290 | |
| 33 | Ash Pan Bracket | 30007376A | |
| 34 | Upper Mount, Ash Door | SRV2-00-586142 | |
| 35 | Bottom Air Cover | SRV2-00-586147 | |
| 36 | Air Control Assembly | SRV1-10-586156 | |
| 37 | Brick Clip, Left | SRV2-00-586193 | |
| 38 | Brick Clip, Right | SRV2-00-586194 | |
| 39 | Gasket, Refractory | SRV3-44-586168 | |
| 40 | Access Cover, Refractory | SRV3-40-586152 | |
| 41 | Firebrick, Cut 9 3/4 x 3 1/2 x 1 1/4 | SRV2-00-586192 | |
| 42 | Insulation, Fiberfrax | SRV3-44-586196 | |
| 43 | Brick Clip, Rear | SRV2-00-586153 | |
| 44 | SS Fireback Plate | SRV2-00-586188 | |
| 45 | Fireback, Refractory | SRV3-40-586151 | |
| 46 | Refractory Engine | 30007299A | |
| | | CS Hex Head, 1/4-20 x 3/8 | 1201337 |
| | | CS Hex Head, 1/4-20 x 5/8 | 1201372 |
| 47 | Side, Right | Classic Black | 4-00-586124A |
| | | Majolica Brown | 4-00-586124-31A |
| | | Bordeaux (Red) | 4-00-586124-33A |
| | LVL Bolt, 1/4-20x1 | 1201745 | |
| | 3/8" Gasket | GK38 | |
| 48 | Ball Plunger 5/16 x 1/2 | 3-31-5500 | |
| 49 | Primary Air Control Handle Assembly | SRV1-10-586149 | |
| | | Thermostat Handle, Knob | 1600660 |
| | Round Head SL 8-32 x 2 | 1202560 | |
| 50 | Thermostat Stub w/Set Screw | 30002716 | |
| | | Thermostat Cable Assembly | SRV30007519 |
| 51 | Air Control | SRV1-10-1601430 | |
| 52 | Air Control Wheel | SRV2-00-586163 | |
| 53 | Outside Air Box Assembly | SRV1-10-586161 | |
| 54 | Rear Housing | 4-00-586129A | |
| | | 3/8" Gasket (Side Openings) | GK38 |
| | 7/16" Gasket (Refractory Opening) | GK716 | |
| 55 | Insulation Board, Back | SRV3-44-586183 | |
| 56 | Air Jacket, Rear | SRV2-00-586177 | |
| 57 | Heat Shield, Rear Cover, Rear Vent | SRV2-00-586175 | |
| 58 | Air Inlet | SRV2-00-586173 | |
| 59 | Exhaust Diverter | SRV2-00-586182 | |
| 60 | Flue Collar, 6 " | 4-00-250102A | |
| | 3/8" Gasket | GK38 | |
| 61 | Heat Shield, Cover, Top Vent | SRV2-00-586176 | |
| 62 | Heat Shield Common | SRV2-00-586174 | |



Vermont Castings 日本総代理店

ダッチウエストジャパン株式会社

☎ **0120-700-027**

✉ **info@dutchwest.co.jp**